

こだわりの60年 その4

本日は教育委員会の令和元年度の教育・文化関係表彰式です。毎年、11月の1日に教育・文化関係で功労のあった個人と団体に対して表彰式を行っています。私は、教育功労者ということで、表彰を受けることになりました。いろいろとありがとうございました。

教員を始めたのは、平工業の時間講師です。週12時間で、1時間2000円の手当でした。教えたクラスは、昭和58年度入学生徒の1年の電気科の2クラスと、情報科の1クラスでした。週4日、バスか自転車で通勤をしていました。

放課後は、自主的に軟式野球部の手伝いをしていました。その時のチームが全国大会に出場し、明石球場で準優勝した実績を残しました。高木君という左ピッチャーを中心にして、佐藤キャプテンがチームをまとめていました。その時のマネージャーが竜崎君とあって、今、「それぞれの甲子園」という映画をプロデュースした方です。この間、学校にも来てくれました。

その後、新採用で白河二高に3年間勤務します。結婚もその時代でした。

3年間を白河ですごしたのち、郡山に移り、田村高校に9年間勤めました。二人の子供もこの時代に生まれました。9年間、野球にかかわり、平成3年秋と4年春には、東北大会に出場しました。プロに入る生徒も育てました。

平成8年に、いわきに戻り、母校磐城高校に9年勤務し、その後は、福島に異動しました。教育委員会勤務や橘高校の教頭、また教育委員会に戻るなど、都合9年福島に住みました。子供たちは、福島の高校を卒業しました。

平成26年になって、勿来高校の校長としていわきに戻り、2年間勤めました。その後また福島に2年ほど戻り、平成30年に母校磐城に校長として赴任して現在に至ります。

大海原を漂流する藻のように、根無し草として昭和59年から36年間過ごしてきたわけですが、磐城高校がたどりついたところとなったのは幸運でした。

磐城高校に始まり、磐城高校に戻れた高校生からの45年は、常にこの高月の方が心の支えでありました。

佐々木食堂のカツ弁や、八幡様の通りの風景、一小の後ろの坂道、県社の階段、常磐線の高架橋、磐城女子の皆さんと別れた交差点、平駅ヤンヤンの風景、この土地が私の心の原点です。

今や、いわき駅となり、ラトブが建って、田町の風景も変わり、銀座通りのお店も様変わりして、半世紀の歴史の流れはいかんともしがたいものですが、この街に暮らした数々の思い出の中に、私の教員人生が集約しています。

もう少しの間勤めますが、ゆくゆくはこの土地の一人となって、母校を支えますが、まだ、5か月もあります。やることはいっぱいです。

